

カービュー マーケットウォッチ (2012年7月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：金子 昭一）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体は9カ月連続で前年を上回り、上半期56.6%増

12年 6月順位	12年 5月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	28,456
2	(2)	→	アクア	トヨタ	25,079
3	(3)	→	フィット	ホンダ	22,068
4	(5)	↑	ヴィッツ	トヨタ	12,023
5	(4)	↓	フリード	ホンダ	11,067
6	(6)	→	セレナ	日産	8,662
7	(7)	→	ステップワゴン	ホンダ	8,626
8	(13)	↑	カローラ	トヨタ	7,904
9	(9)	→	ヴェルファイア	トヨタ	5,765
10	(8)	↓	デミオ	マツダ	5,699
11	(14)	↑	パッソ	トヨタ	5,163
12	(12)	→	スイフト	スズキ	4,844
13	(18)	↑	CX-5	マツダ	4,671
14	(11)	↓	アルファード	トヨタ	4,606
15	(16)	↑	ヴォクシー	トヨタ	4,566
16	(17)	↑	ウィッシュ	トヨタ	4,496
17	(26)	↑	エスティマ	トヨタ	4,433
18	(10)	↓	ノート	日産	4,287
19	(19)	→	ラクティス	トヨタ	4,056
20	(25)	↑	キューブ	日産	3,944

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

**■乗用車全体は9カ月連続で前年を上回り、上半期 56.6%増
ただ日産は9カ月ぶり、三菱は3カ月連続でマイナスに**

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した6月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は43万2642台、前年同月比は146.8%（貨物車、バスを含む新車総数は50万5342台、前年同月比143.6%）と9カ月連続で大幅に前年を上回り、東日本大震災前の10年6月実績37万7162台と比べても14.7%増と好調を維持している。

1～6月の上半期累計では、貨物車を含む新車総数で登録車（輸入車を含む3／5ナンバー乗用車と貨物車、バスの合計）は6月単月の伸び率が過去最高、貨物車を含む軽自動車は6月単月として過去最高の販売台数を記録したこともあり、294万7357台で前年同期比53.6%増となり、大震災前の10年はもとより、リーマンショック前の08年上半期累計を5.8%上回った。

輸入車と軽乗用車を除く3／5ナンバーの国産乗用車（日産マーチ輸入分のみ含む）は25万7043台、前年同月比は143.2%。ナンバー別では5ナンバー小型乗用車が14万8578台／前年同月比145.6%、3ナンバー普通乗用車は10万8465台／同140.2%だが、今年の上半期累計を見ると、5ナンバー86万6648台／前年同期比153.6%、3ナンバー67万8296台／同167.5%と、3ナンバー車の回復スピードが目につく結果となっている。

メーカーブランド合計は日産、三菱を除いて前年を上回り、トヨタ、ホンダ、マツダは前年同月比172.3%、150.8%、165.8%と5割増を上回る復調ぶりで、トヨタとホンダは上半期累計でも前年同期比が183.8%、153.8%と5割増を超えている。月間ランキングでは13カ月連続トップの「トヨタ プリウス（α含む）」、2位「トヨタ アクア」、3位「ホンダ フィット（シャトル含む）」のトップ3は3カ月連続で変動なし。日産は「マーチ」、「ノート」、「ジューク」が前年割れで、苦戦を強いられたようだ。

軽乗用車は14万9838台で、前年同月比162.3%（貨物車を含めた全体では18万8190台／同148.4%）と9カ月連続のプラス。上半期累計では86万482台、前年同期比157.5%と2年ぶりに前年を上回った。車名別では「ホンダ N BOX」が2万3090台で、3カ月連続トップ。上半期累計でも「スズキ ワゴンR」を上回った。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは2万5229台、前年同月比は113.0%で2カ月連続のプラス（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では2万9303台、同99.7%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が5751台／前年同月比104.5%で2カ月連続トップで、BMW（ミニを除く）が4681台／同116.8%で2位、3位はメルセデス・ベンツで4384台／同115.4%だった。このところ、前年比で高い伸び率を示していたアルファロメオが663台（前年同月比は321.8%）で、アウディ、ボルボ、ミニに次いで7位にアップしたのも注目される。

■ココも気になる！ その1

インプレッサ、BRZのヒットで独自路線確立を狙うスバル

05年にトヨタが筆頭株主になり、提携関係となったスバル。それでも国内販売では05年から3年連続で前年割れが続き、08年にトヨタ、ダイハツ、スバルの3社による提携強化を発表。軽自動車からの撤退やトヨタとのFRスポーツカー共同開発などが話題となったが、その年の9月にリーマンショックが勃発。09年まで5年連続で前年を下回ってしまった。10年は公的支援策の追い風や前年にデビューした「レガシィシリーズ」の健闘で6年ぶりに前年を上回ったが、昨年は大震災の影響で15万8701台、前年比89.8%にとどまった。

そんな厳しい状況が続いていたスバルだが、11年12月発売の「インプレッサ」がスマッシュヒット。今年は5月時点で「スポーツ」、「G4」合わせて月間販売目標2200台を上回る月平均約2970台が売れた（旧型ベースのWRXシリーズを含めれば月平均約3400台、前年上半期比193.7%）。インプレッサが1.6Lと2Lの5ドア&セダンであることを考えれば、売れ行き好調といっているはずだ。さらに今年2月で軽自動車の生産を終了（現在販売中の軽自動車はダイハツからのOEM車）したが、3月28日にトヨタとの共同開発車、「BRZ」が発売され、6月末時点で1546台、実質販売期間を3カ月とすると、月平均約515台と月間販売目標450台をクリアする結果となっている。

「BRZ」は海外でも評判が高く、イギリスでは自動車技術専門誌のカー・オブ・ザ・イヤーを受賞し、5月下旬に発売されたアメリカ市場では6月単月で818台と、すでに日本の6月単月を上回り、アメリカ市場におけるスバル全体の1～6月累計でも16万4404台、前年同期比24.4%増と好調だ。

今後はインプレッサから独立させる形で、「XV」や「WRX」を投入し、レガシィで好評を博した直噴ターボを「インプレッサ」や「フォレスター」、「エクシーガ」にも展開する予定。スバルならではのクルマ作りが確立できるか、要注目だ。

■ココも気になる！ その2

上半期はゴルフ、ポロが1、2位とVW勢が好調をキープ

輸入車の販売データを集計している日本自動車輸入組合（JAIA）から、今年上半期、1～6月累計による車名別販売台数ランキングが発表されたので、海外メーカー製乗用車についてベスト10を紹介していこう。

1位は「VW ゴルフ」シリーズで1万3012台（前年同期比91.4%／前年同期順位1位）、以下、2位「VW ポロ」8853台（同146.7%／同3位）、3位「BMW ミニ」8242台（同126.1%／同2位）、4位「メルセデス・ベンツ Cクラス」7786台（同140.8%／同4位）、5位「BMW 1シリーズ」5391台（同261.8%／同12位）、6位「メルセデス・ベンツ Eクラス」4322台

(同 103.4%/同 7 位)、7 位「BMW 3 シリーズ」4041 台 (同 88.6%/同 6 位)、8 位「BMW 5 シリーズ」3874 台 (同 83.3%/同 5 位)、9 位「ボルボ 60 シリーズ」3672 台 (同 170.9%/同 10 位)、10 位「BMW X1 シリーズ」2814 台 (同 138.5%/同 13 位) となった。

「ゴルフ」、「ポロ」の VW 勢は昨年 2 年連続年間 1、2 位を獲得した勢いをキープした形だが、ゴルフは本国ドイツでは今秋にもモデルチェンジする予定で、日本での売れ行きにどう影響するか注目される。

前年同期比の伸び率では「BMW 1 シリーズ」の 161.8%増がダントツ。昨年 9 月の発売以降、月平均 800 台ペースだったが、今年 5 月によりスポーティな M スポーツが追加され、月平均 900 台にペースアップ。今年 1 月にフルモデルチェンジし、4 月に中核モデル 320i が投入された「3 シリーズ」と合わせて、BMW の売れ行きは要チェックだ。

このほか、1880 台で 17 位にランクインした「アルファロメオ ジュリエッタ」をはじめ、今秋日本導入予定の「VW up!」や「フィアット パンダ」、「メルセデス・ベンツ A クラス」といったニューモデルにも期待したい。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 総務部 広報チーム (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
